

感染症学

責任者・コーディネーター	微生物薬品創薬学講座 上原 至雅 教授		
担当講座・学科(分野)	微生物薬品創薬学講座		
対象学年	3	区分・時間数	講義 22.5 時間
期 間	後期		
単 位 数	2 単位		

・学習方針（講義概要等）

感染症学では、既習の微生物学の知識を基にして、まず代表的な病原微生物の微生物学的特徴を学ぶ。次に、これら微生物が様々な疾患を引き起こすことや、その病態や発症機構など、感染症の基本的知識を習得させる。また、新興・再興感染症が現代社会に世界的規模で脅威を与えている現状を理解させ、感染症の予防に関して、院内感染の発生要因、感染経路、原因微生物、およびその防止対策を学ぶとともに、公衆衛生と健康維持のための感染症の予防対策などについて学ぶ。

・一般目標（GIO）

代表的な感染症を理解するため、病原微生物に関する基本的知識を修得する。また、公衆衛生の向上に貢献するために、感染症についての現状とその予防に関する基本的知識を修得する。

・到達目標（SBO）

1. 現代における感染症の特徴について説明できる。
2. グラム陽性球菌、桿菌の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。
3. グラム陰性球菌、桿菌の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。
4. グラム陰性スピリルム属病原菌の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。
5. スピロヘータ、マイコプラズマ、リケッチア、クラミジアの微生物学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。
6. 主な DNA ウイルスが引き起こす代表的な疾患について概説できる。
7. 主な RNA ウイルスが引き起こす代表的な疾患について概説できる。
8. レトロウイルス（HIV、HTLV）が引き起こす疾患について概説できる。
9. 真菌の微生物学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。
10. 代表的な原虫、寄生虫の代表的な疾患について概説できる。
11. プリオン感染症の病原体の特徴と発症機序について概説できる。
12. 新興感染症および再興感染症について代表的な例を挙げて説明できる。（☆）
13. 院内感染について、発生要因、感染経路、原因微生物、およびその防止対策を概説できる。

・講義日程

（矢）東 103 1-C 講義室

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	講義内容
9/12	水	2	微生物薬品創薬学講座	上原 至雅 教授	概論
9/26	水	2	微生物薬品創薬学講座	上原 至雅 教授	細菌による感染症 1：グラム陽性菌（1）
10/1	月	4	微生物薬品創薬学講座	上原 至雅 教授	細菌による感染症 2：グラム陽性菌（2）
10/3	水	2	微生物薬品創薬学講座	上原 至雅 教授	細菌による感染症 3：グラム陰性菌（1）

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	講義内容
10/10	水	2	微生物薬品創薬学講座	上原 至雅 教授	細菌による感染症4：グラム陰性菌（2）
10/17	水	2	微生物薬品創薬学講座	上原 至雅 教授	その他の細菌による感染症
10/24	水	2	微生物薬品創薬学講座	上原 至雅 教授	ウイルスによる感染症1：総論
10/31	水	2	微生物薬品創薬学講座	上原 至雅 教授	ウイルスによる感染症2：DNA ウイルス
11/7	水	2	微生物薬品創薬学講座	上原 至雅 教授	ウイルスによる感染症3：RNA ウイルス
11/14	水	2	微生物薬品創薬学講座	上原 至雅 教授	ウイルスによる感染症4：レトロウイルス
11/21	水	2	微生物薬品創薬学講座	上原 至雅 教授	真菌による感染症
11/28	水	2	微生物薬品創薬学講座	上原 至雅 教授	原虫・寄生虫による感染症
12/10	月	4	微生物薬品創薬学講座	上原 至雅 教授	プリオンによる感染症
12/12	水	2	微生物薬品創薬学講座	上原 至雅 教授	新興・再興感染症とバイオテロリズム
12/19	水	2	微生物薬品創薬学講座	上原 至雅 教授	感染症の予防

・教科書・参考書等（教：教科書 参：参考書 推：推薦図書）

	書籍名	著者名	発行所	発行年
参	スタンダード薬学シリーズ4 「生物系薬学Ⅲ 生体防御」	日本薬学会 編	東京化学同人 (定価 3,400 円)	2006
参	ベーシック薬学教科書シリーズ15 「微生物学・感染症学」	土屋 友房 編	化学同人 (定価 4,000 円)	2008
参	薬学領域の病原微生物学・感 染症学・化学療法学 第2版	西島 正弘、後藤 直正 編	広川書店 (定価 5,700 円)	2009
参	やさしい微生物学	関水 和久 編著	広川書店 (定価 2,800 円)	2011

・成績評価方法

出欠状況、定期試験、確認問題等から総合的に評価する。